

3 水道のあゆみ

①水道がなかったころの暮らし

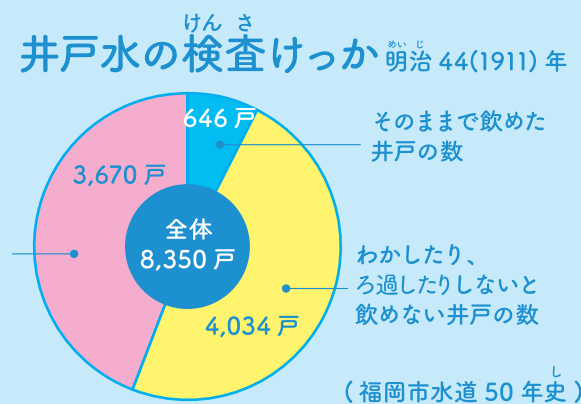


水道がなかったころ、福岡市の人たちは、どのようにして飲み水やせんたくの水を手にいれていたのかな。

昔は、地面に穴を掘って井戸をつくり、そこから水をくんで食事の用意をしたり、せんたくに利用したりしていました。

しかし、井戸水の多くは、塩分や鉄分がふくまれ、そのまま飲むことができませんでした。

それで、井戸水を一度わかしたり、布でろ過したりして飲むようにしていました。



毎日の生活に必要な飲み水を手に入れるには、手間がかかっていたんだね。

わあ、飲めない井戸がたくさん。今のくらしのように、安心して水が使えなかったんだね。



(ねらい) 井戸水の検査結果や優良水(松原水)の購入などから、当時の人々のくらしや水事情に気づかせ、水道施設への人々の願いについて考えさせてください。また福岡市で水道がつくられたきっかけとして、井戸水の汚れによる伝染性感染症の流行があったことに気づかせてください。

(解説) ●「松原水」とは、千代の松原の砂丘地帯でくみ出される飲料水のことで、長い間市民に親しまれましたが、水道が開通された大正12(1923)年3月に廃止されました。

水道マメ知識③

松原水

福岡市の井戸の中には、とてもきれいな水が出る井戸もありました。

「松原水」は、東公園などの松原の井戸からくんだ水で、人々から「命の水」とよばれていました。

水売りたちが、水おけを車につんで売り歩いていたそうです。また、遠くから買いにくる人もいました。



現在、東公園に「松原水」井戸あとが保存されています。



松原水を売り歩いた車。

飲み水の危機

明治の中ごろから、福岡市の人口はふえてきました。それに、人々のくらしもかわってきました。そのため、たくさんの水を使うようになりました。それで、井戸の水が足りなくなり、よごれた水や飲んではいけない水を飲む人も出てきました。よごれた水や飲んではいけない井戸の水が原因で、コレラなど恐ろしい病気が流行し、多くの人がなくなってしまうそうです。



毎日のくらしにも、こまっただろうな。

きれいな水を安心して使える水道は、どのようにしてできたのかな？



(解説) ●水質の悪化や下水処理の不完全さのためにコレラや赤痢、トラコーマなどの伝染性感染症が流行しました。
●コレラとは、コレラ菌の感染による急性伝染病で、はきけや下痢をおこしたり、重症の場合、死にいたることもあります。福岡市では、次のように人口が増えつづけています。

年	明治22年	明治36年	大正12年	昭和10年	昭和30年	昭和50年	平成7年	令和5年
人口(人)	50,847	70,503	142,519	291,158	544,312	1,002,201	1,284,795	1,645,863